

「オリンピック・ムーブメントと女性」(下) 「オリンピックの未来」ジョン・ルーカス著より

オリンピック・ムーブメントと女性とのかわりについて、いままでの経過や将来の展望を、前号に引き続き「オリンピックの未来」からご紹介いたします。

根本的な問題とは

「五二% (女性の割合) の解決、すなわち男女の平等を実現するのはなかなか難しいだろう。オリンピックの世界を女性に解放することがいかに困難であるかは、一九九〇年十月、モンテカルロで開かれた国際スポーツ連盟の第二十四回年次総会でも証明された。

「女性とスポーツ」という特別プレゼンテーションに姿を見せたのは、五百人以上の参加者のうち、ほんの一握りに過ぎなかった。

出席者の一人、ロンドン・タイムズ紙のチーフスポーツ記者、デイビッド・ミラーは怒りを表すと同時にこう語っている。「根本的な問題は、偏見を持つている者を改心させることではなく、幼児期の思考形成、両親、教師、全ての宗教的・社会的・政治的指導者たちによる教育の問題である」。

今後の「頼みの綱」は、女性についてまだ偏見を持っていない若者にあるのではないだろうか。フランス人女性アリス・ミリアが二一年に史上初の女性国際陸上競技会を開催したとき、彼女は「世界に広がるロウソクの火を灯

した」と讃えられた。IOC (国際オリンピック委員会) に加盟する百六十八の全ての国 (と地域) の女性たちが、競技者、トレーナー、コーチ、あるいはNOC (各国オリンピック委員会) やスポーツ連盟、IOCの運営委員や代表としてオリンピックに参加することが最終ゴールである。

英・米・ソが女性の代表を増やしても、中南米、アフリカ、すべてのイスラム諸国が女性メンバーを送るようにならなくては意味がない。

IOCの後援を受けた世界中の二十四もの国際スポーツフェスティバルと、六大陸からの競技管理運営者たちのオリンピック・ムーブメントが、女性の権利獲得のモデルになり得るといふことはやはり空想ではない。ローザンヌのIOC本部で働く専門家は男性よりも女性の方が多い。オリンピック・ムーブメントの中で適切な地位を得ている女性たちは、精通した仕事を通して堂々と振る舞うべきである。

世界的なチャレンジ

発展途上国であるイスラム社会や、カトリック教会が少女少女たちの性差

による役割を伝統的に規定している国々では、女性が公に競技場へ出ていくのはとても勇気が必要である。女性が世に出ていくときのもう一つの障害で、あまり知られていないものは、国家権力の強弱だといわれている。米国のように政府の力が制限されている国



▲IOC女性メンバーの1人アンタ・デフランツ (写真中央) ©フォート・キシモト

では、女性改革者たちにチャンスは広く開かれているが、中央集権的体制で伝統の強い国では、女性の選択肢は非常に狭い。

六八年 (メキシコ五輪) の円盤投げ金メダリスト、ルーマニアのリア・マ

ノリウは女性たちに対し、「決してあきらめることなく、メッセージをやさしく持続的に伝えてゆきなさい」とアドバイスする。彼女は十五年間、世界一流の選手として活躍し、その後、ルーマニアオリンピック委員会会長となった。「私が今の地位にいるのは、一生涙、スポーツ選手たちの手助けをしよう」と決意したからです。彼女の昇進は、有能で面倒見のよい女性たちが夢に向かって突き進むためのお手本となった。

国際スポーツ競技会を含む社会のあらゆる場面で、女性を積極的参加者として認めるという改革的傾向はヨーロッパ、米国の一部で受け入れられてきた。おもしろいことに、人気スポーツにおいて男女の平等を求める女性たちの声が強くなってきているのも、この地域である。これは生活の優先順位の違いによるものだ。アフリカの男女には二メートルのハイジャンプなどより、もっと重要なものがたくさんある。アフリカや第三世界で、若い男女に与えられた昔からの社会的役割があり、スポーツなど彼らの文化の一部でも何でもないのである。

才能ある女性の発掘と育成

サマランチIOC会長が就任してからの十年間は、それ以前に比べ、オリンピックの伝統や規則が激変した。変化の大部分はより多くの人々に利益をもたらした。特に競技者にとっては、それまでは考えられないほどの恩恵を受けることになったのである。しかし変化が不十分な点もある。女性の参加という分野である。「体育・レクリエーション・ダンス・ジャーナル」(八八年三月号、九〇年二月号)では百ページ全部が「女性とスポーツ」「女性とオリンピック」「女性とリーダーシップ」について割かれている。米国オリンピック委員会、及びIOCメンバーのアンタ・デフランツは、誌上ですべての読者、特に若い女性たちに、女性がオリンピックの世界の指導的立場に立つ余地があることをあらためて知らせた。男女を問わず、その人に適した場所で自分の能力を最大限に発揮し、より優れたレベルを目指すことが目標でなければならぬ。

私たちはオリンピックで選手に対し勝ったかどうかを問題にすべきではない。彼らの公平さ、適切さ、陽気さ、プライド、そしてすべてのライバルへの尊敬を持つことは、金メダルを獲得することより千倍も重要である。

ソウル大会(八八年)のスーパー스타で、ピストル競技で二つのメダル

を獲得したニノ・サルクバゼは彼女の成功について聞かれ、「私は一位がほしいなどと一度も思ったことはない。私には別の目的、私ができることを見ることがあるのだ」と語った。オリンピックはドラマチックで、人間の優秀さと愚かさ、人々の華やかさとつまらなさを目の当たりにすることができる。

女性に完全に平等な機会をもたらすことは、いまなおオリンピック指導者たちの間で問題にすべき重要な課題でなければならぬ。予言はむずかしいが、未来のオリンピックはより民主的、なすばらしいスポーツ競技になっていくのではないだろうか。西暦二〇〇〇年を迎える前に、大勢の女性たちがオリンピック競技場やIOC役員室にいるというのにはや夢ではない。

現実主義作家フランク・ハリスは、人類に対する三つの神の啓示について書いている。

「一つは何百万もの疲れ切った奪われた者たちの自由。二つ目は少年・少女の美しさ、肉体美と若さの恵み。そして三つ目は男性・女性の才能。その大部分は凡庸さとの下劣な争いで浪費されている。しかしそれは本来、貴重な才能として見いだされ、使われていくべきものなのである」。

男女の平等のための「新しい世界」に向かって、働き闘い続けている全体的人々にバンザイノ！ (おわり)

美を磨く心ある人へ

エステティックの知識をカタチにしたら全5冊の本になりました。

10月発売
5巻セット
12,000円
(税別・送料別)



「美」という言葉には、かたちのバランス・整えるという意味のほか心地よさや満足感を与えるもの、賢さという意味もあります。美と健康に精通している多彩な執筆陣が、見開き1テーマで解説した内容は、エステティシャンや理美容師にとって、生涯手放せない座右の書となるはず。サロンのデスクやあなたの本棚に置いて、いつでも、気軽にお読みください。

エステティシャンのための教養講座 **エステティック読本**

- 5巻セット 12,000円(税別)
- 各巻A4版(210×297mm)
- 編集・発行/ザ・ビューレック社
- 監修・滝川エステティック学院

Vol.1
エステティック入門(理論編)
日本エステティシャン協会
副会長
著者：吉田 醇
現代におけるエステティックの意義と目的を中心に、エステティシャンとして理解を深めておくべき脳、皮膚、老化、生命活動をつかさどる物質のしくみを解説。

Vol.2
エステティック入門(実践編)
日本エステティシャン協会
本部教育委員・理事
著者：高柳初子
プロのエステティシャンとしての心構えから、カウンセリングノウハウ、マッサージノウハウまで、現場で役立つ実践的、具体的ノウハウを紹介。

Vol.3
素肌のサイエンス
日本エステティシャン協会理事
エステティックサイエンティスト
著者：湯浅正治
肌のしくみ、性質、スキンケアの方法など、最も知りたい肌のメカニズムとカウンセリングの意味を、最新科学に基づいて解明する。

Vol.4
健康美容を考える
琴平診療所所長
医学博士
著者：水嶋 昇
美しさは健康から……。健康な身体を作り、病気やトラブルを予防するために知っておきたい健康トピックスの集大成。

Vol.5
おいしいエステティック
医学博士
管理栄養士
著者：本多京子
季節を彩る様々な「食」のお話。楽しく読みながら、栄養学をお洒落においしく学べます。

「エステティック読本」に関するお問い合わせとご注文は—— ザ・ビューレック社 〒111 東京都台東区元浅草3-2-1 ☎03-3845-5577